

2018年度入試も昨年度に引き続き、「思考力・判断力・表現力」など、2020年大学入試改革のテーマとなる「学力の三要素」が意識されたとされる問題が各教科で出題されています。

## 英語

### 【A問題】

#### 今年の入試の特徴

大問の数は4つ。小問の数は22。どちらも昨年と変更がありませんでした。大問1は「基礎的な語い力と文法力」を、大問2は「スピーチ文の読解力」を、大問3は「会話文の読解力」を、大問4は「英語での表現力」を問う問題でした。

#### その他の注目点

動詞の使い方に関する問題が増加しています。また代名詞の指示内容に関する問題は、昨年と同様3問出題されました。英問英答の問題に語数指定が追加された点が昨年とは異なります。リスニングは標準レベルでした。

#### 難易度（昨年との比較）

昨年と比べて大きな変更はありませんでした。ただし、英文の量が増加しました。大問2の長文の語い数は、昨年の約170語から今年は約190語に増加。大問3の会話文の語い数は、昨年約290語から今年は約340語に増加しました。

#### イングでは…

平常授業では教科書内容の授業に沿って指導し、新たな語いと文法の習得を行っています。また季節講習会（春・夏・冬）において、英文法の復習や入試によく出題される語い力を養います。3年生の冬には長文読解や英作文の指導を行い、得点アップを目指します。

### 【B問題】

#### 今年の入試の特徴

対話文30点、長文読解30点、条件作文8点、リスニング22点という問題構成でした。問題構成、難易度共に、例年並みですが、条件作文に変化が見られました。リスニングの聞き取り語数約600語と2017年度と変化ありませんでした。

#### その他の注目点

条件作文において、条件が3つ与えられました。日本文化について英語での説明と好き嫌いについて指示された上の理由の作文が求められました。出題意図の理解基本語彙の習得、正しい文構造での作文力はもちろん、表現力が問われる傾向が強まりました。

#### 難易度（昨年との比較）

対話文は約550語、長文は約350語と、2017年度より、対話文の語数が増えました。2017年度より変化があったのは、長文と条件作文。特に作文の条件1にとどまった生徒も多かったと思われます。

#### イングでは…

3技能向上のために、教科書本文を題材に音読、暗唱、音読筆写、ディクテーションを行います。中学3年生ではそれらに加えて、長文読解素材を用い、音源を聞いて読むなどのトレーニングを通して、早く、正確に英語を読み、理解する力を養います。また、入試対策教材を用いて、入試英作文の書き方の指導やリスニング問題演習などを行い、3技能の得点力を高めていきます。

### 【C問題】

#### 今年の入試の特徴

実施時間は筆記30分、リスニング25分。大問数は9題。条件作文では、語数指定がありません。英文自体は平易ですが、分量が多くスピードが求められています。リスニングは3部構成。英文を読み、対話文を聞き、聞き取った内容を書く統合問題がPartCで出題されています。

#### その他の注目点

長文の題材は、アカデミックリーディングを意識し、科学内容が多く取り入れられています。文種は多岐にわたっており、図、グラフ付きの長文も出題されています。対話形式はリスニングで出題されており、英語運用能力を問う傾向は変わっていません。

#### 難易度

大問1で、整序英作文が出題され、形式に変化はありましたが、平易な問題です。その他出題形式に大きな変化はなく、語いレベル、文法レベルともに、難解なものは見受けられません。250語～300語程度の英文6題読み、それぞれ3～4問の小問を解答するスピードが求められています。

#### イングでは…

音読を中心に、4技能（読む・聞く・書く・話す）の習得を目指した統合型授業のカリキュラムを設定。教科書という上質かつ多岐にわたる題材を音読することで英語を英語として受け入れる力を育み、リスニング力も高めます。また、暗唱やディクテーションを行い、内容理解はもちろん、書く力も養います。上位者を対象とした選抜形式の対策や、C問題対策形式に沿った模擬試験も行います。

## 理科

※理科は問題区分がなく、共通問題となります。

#### 今年の入試の特徴

生物・地学・物理・化学の各分野からバランスよく出題されています。大問数も4題で例年通りの出題構成でした。学年別の出題傾向では、中2内容が約5割中1内容が約3割、中3内容が約2割と出題学年に偏りがありました。

#### その他の注目点

試験時間に比べ、文章量が多く、1問1問にかけることができる時間が短いだけ速く、問題の意図を読み取り、答えにたどりつく力が求められています。

#### 難易度（昨年との比較）

昨年度に比べ、各分野ともに基本問題が多く解きやすく感じた受験生が多かったのではないのでしょうか。問題数も昨年と比べ微減の43問で、基本的な知識を身に付けておけば十分対応できる問題が多く出題されていました。

#### イングでは…

公立入試では、定期テストに出題されるような基本問題の定着も必要です。そのためイングでは、定期テスト対策にも力を入れており、高得点を目指します。また、中学3年生の12月以降は入試対策を行い、入試の出題傾向にあわせた対策を行っています。また、季節講習会（春・夏・冬）や夏期特訓合宿・正月特訓などを通して、中1～中3内容の復習を行い、入試に対応できる力を養成します。

# 数学

## 【A問題】

### 今年の入試の特徴

一昨年、昨年とほぼ同形式、大問は4題で問題数も昨年と同じでした。大問1は「基本的な計算」、大問2は「関数」「統計」「確率」などの数量関係から図形の基本まで、大問3は「関数の利用」で今年は従来の規則性の問題。大問4は「平面図形」でした。

### その他の注目点

昨年突然出題された大問3のダイアグラムの問題から今年は、再び従来の規則性に戻りました。また、昨年に引き続き図形の証明は穴埋め問題になりました。A問題については幅広い知識が必要ですがほとんど基本的なレベルの問題なので、基本問題に絞って学習すればいいでしょう。

## 【B問題】

### 今年の入試の特徴

昨年度とほぼ同形式・同分野からの出題で、大問は4つ。大問1は「数量関係」大問2は「関数の利用」、大問3は「平面図形（証明を含む）」、大問4は「空間図形」からの出題でした。また、求め方を記述する問題が1つ減り、全体としての設問は2問増えました。

### その他の注目点

「平面図形」「立体図形」で配点が2点ずつ減りました。代わりに大問1「数量関係」の設問が1問増え、配点も3点増えています。ことばの知識も問われており、3年間の学習内容から万遍なく出題されています。

## 【C問題】

### 今年の入試の特徴

昨年度の出題とほぼ同形式・同分野からの出題で、大問は3つ。大問1は「計算」「確率」「数の性質」「関数」、大問2は「平面図形（証明含む）」大問3は「空間図形」からの出題でした。

### その他の注目点

大問1の「資料の整理」「不定方程式」などは条件を整理しきれぬかがポイントになったと言えるでしょう。また、今年度も「三角柱の切断の問題」はありませんでした。

### 難易度（昨年との比較）

難易度は一昨年、昨年とほぼ同じ程度でしたが、大問3が規則性に戻ったことで幾分易しくなったかもしれません。

### イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了し、その後、私立・公立入試を見据えた指導を行います。得点差がつきやすい問題・つきにくい問題など、正確な分析を行い受験生に情報を提供します。授業では得点源とする問題を選定し、効率的に得点アップが図れるよう徹底指導をしています。

### 難易度（昨年との比較）

昨年と比べると、全体的に易化傾向です。「関数の利用」は規則性へと戻り内容も過去問題をこなしていれば見覚えのあるものだったと思います。「図形の証明」も、昨年よりはるかに解き易くなっていました。

### イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了し、その後、私立・公立入試を見据えた指導を行います。得点差がつきやすい問題・つきにくい問題など、正確な分析を行い受験生に情報を提供します。授業では得点源となる問題を選定し、効率的に得点アップが図れるよう徹底指導をしています。

### 難易度

昨年と比べると、全体的に易化傾向です。「平面図形（証明問題も含む）」「空間図形」も含め大阪府の過去の問題を中心に勉強してきた受験生にとってはこれまでと比べ比較的スムーズにベンが動いた子も多かったのではないのでしょうか。

### イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了し、その後、私立・公立入試を見据えた指導を行います。得点差がつきやすい問題・つきにくい問題など、正確な分析を行い受験生に情報を提供します。授業では得点源となる問題を選定し、効率的に得点アップが図れるよう徹底指導をしています。

# 社会

※社会は問題区分がなく、共通問題となります。

### 今年の入試の特徴

地理・歴史・公民の3分野が、総合問題として問われています。大問は4つ小問は合計40題と昨年より4題増加。また、資料や写真、地図から必要な情報を選び出し、学習した内容や知識と組み合わせる思考力重視の問題も出題されています。

### その他の注目点

ここ数年の傾向として、難易度が2極化しています。全分野において点数の取りやすい、基本的な知識を問う問題、点数の取りにくい、資料を読み取り思考し判断する問題です。社会で合格点をとるためには、上位校ほど思考力を問う問題で失点はできません。

### 難易度（昨年との比較）

昨年度より難易度はやや下がっています。比較的基本的な知識を問う問題が増えています。また記述問題の文字数も減少しており、解答しやすいでしょう。ただし、資料の読み取りは、選択肢の文字数が増えていることと、該当するものをすべて選ばせる形式にしている点は、難易度が上がっています。

### イングでは…

1年間で「地・歴・公」を学習できる授業・教材・プログラムを提供しています。平常授業では、学校内容を先取りしますが、中3生の12月以降は入試対策の授業を行います。また、季節講習会（春・夏・冬）では「地・歴・公」の総復習をし入試に対する実戦力を鍛えます。私立入試後は、公立入試問題に即した教材を使い知識の整理のみならず、思考力を問う問題もトレーニングします。

## 【A問題】

### 今年の入試の特徴

出題構成（説明的文章・古文・随筆・漢字・作文）に大きな変更はありませんでしたが、漢字の問題数が読み・書きともに減少していました。また、チャレンジテストに出題されるような発表原稿中の表現を問う問題も見られました。さらに、作文のテーマが本文の内容と関係のないものになっていました。

### その他の注目点

空欄補充問題が昨年同様多く、漢字問題が減少したため、昨年度以上に読解力の有無が問われました。記述問題の配点が8点・6点と高く、文章読解だけでなく自分の意見を述べる力も昨年以上に重要視されたことがわかります。古典については、中学2年生の冬期講習会で使用したテキストの文章と同じものが出題されました。

## 【B問題】

### 今年の入試の特徴

現代文2題、古文1題、作文1題の構成は例年通りです。現代文は、昨年同様随筆文と論説文が出題され、小説文の出題はありませんでした。作文は、条件に従って考えをまとめるという形式に変更はありませんが、字数が「300字以内」から「260字以内」に変更されました。

### その他の注目点

作文・記述問題といった配点の高い問題での得点力が、大きなテーマです。また、1つの文・1つの段落の、文章中での役割を問う問題も見られます。日頃から、多くの文章を読んで知識を増やし、読解力・記述力を鍛えること。文章を読む際には、全体の流れや構成を意識しながら読むことが求められます。

## 【C問題】

### 今年の入試の特徴

古文が漢文に変更されていました。この四半世紀では初めてだと思われます。ただし、書下し文が併記されていたので、解き方は古文とほぼ変わりません。現代文2題、漢字、作文は例年通りでした。作文は、条件がより具体的になり内容をいかに早く決められるかが鍵となりました。

### その他の注目点

記述問題の文字数が増加し、文章の1箇所を使えば答えが書けるものではなくなくなっています。解答に使用するべき語句を複数見つける読解力が求められます。作文は「チャレンジテスト」の記述式問題に近くなっています。社会・時事問題に関心を持ち、自分の考えを深める習慣が必要です。

### 難易度（昨年との比較）

問題自体は、教科書の内容が理解でき、基本的な知識が身につけていれば十分に対応できるレベルでした。ただし、漢字の問題が少なくなった分、点数は稼げづらくなりました。また、記述問題が10字程度のものと30字程度のものが出題されており、昨年度より難しくなりました。

### イングでは…

イングでは、普段から文章読解中心のカリキュラムで授業を行い、初見の文章を読み解く技術や記述問題解答のための技術を繰り返し指導していきます。特に記述問題については、テーマに沿った記述を繰り返すことにより、公立高校入試を突破できるだけの力が必ず身につきます。

### 難易度（昨年との比較）

大きな変化はありません。書き抜く問題の難易度がやや上がりましたが記述問題の数が減り、その内容も文章の根拠を捉え、字数内でまとめるという基本問題でした。昨年度の問題をもとに対策を行えば、十分に得点できるレベルです。

### イングでは…

イングの授業では、文章読解力・記述力・表現力養成のカリキュラムを実施しています。教科書だけでなく、多くの文章に触れ、読み方、考え方、答えの作り方を学び、トレーニングを繰り返すことで、公立入試問題に対応できる力を養成します。

### 難易度

抜き出し、記述ともに問題数が減少し、難易度も下がりました。文章の内容を問う選択問題は選択肢が長くなり、難化しています。作文テーマはさらに難化しました。「発表に使用する資料・データ」について述べるもので、書ききれるかどうかで大きく差がつくと思われます。

### イングでは…

イングの授業では、文章読解力・記述力・表現力養成のカリキュラムを実施しています。教科書だけでなく、多くの文章に触れ、読み方、考え方、答えの作り方を学び、公立入試問題に対応できる力を養成します。また、さまざまな条件作文についてもトレーニングを重ねていきます。